

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	self-A・オンステージ鶴間	事業所番号	1413001080
住所	神奈川県大和市西鶴間1-17-1 芙蓉ビル3F	管理者名	工藤 絵美
電話番号	046-204-9105	対象年度	2025年度

地域連携活動の概要	
<p><活動内容> 【活動場所】 株式会社日本フードエコロジーセンター 相模原市中央区田名塩田1-17-13 【実施日程】 月曜日～金曜日(週3日 09:00～14:00) 【実施した生産活動・施設外就労の概要】 食料リサイクル事業及び飼料製造事業に係る食品残渣(食品循環資源)分別仕分け作業またはこれに付随する業務 【利用者数】 5名(基本)</p> <p><目的> 【地域連携活動のねらい】 地域企業と連携し、障がい者の方が社会経験を重ねて一般就労に繋げていく。職場のマナーや知識・技術を身に付け、出来る作業を増やして自信を高めていく。</p> <p>【連携活動のメリット】 一般企業でも就労環境を配慮することで障がい者の方が就労可能であることを実業務を通じて理解できる。それを踏まえ、直接雇用の選択肢として障がい者を加え、人手不足の企業や地域を支えていく人材の確保と育成が期待できる。</p> <p>【対象者にとってのメリット】 様々な作業を体験することで、出来る作業を増やし、自分に合った職域拡大の可能性を見いだせる。同時に一般企業での就労を通じ自らが社会に必要とされることの実感を得る。またメンバー間同士で創意工夫しながら作業することで協調の実践の場ともなる。</p> <p><成果> 【実施した結果・得られた成果】 食料リサイクル事業の一端をになっている使命感を持ちながら異物混入の無いように責任をもって食材の仕分け作業をする意識が年々高まってきた。</p> <p>【課題点】 個人の能力差に開きがある。作業性を上げるには、個々の特性に配慮したどのようなやり方が良いか、また他のメンバーを参考にするなど、メンバー自身での能力の向上を促す。</p>	<p><活動の様子> 活動の様子</p>  <p>仕分け前食材例</p>  <p>仕分け後食材例</p>   <p>(活動内容の追加コメント) 素早く食材を仕分けるには、いかに、手際良く、効率的に実施するかを学び、簡単な作業の中でも、一つの食材には、数種類に区分される包装材や食材が含まれているのもあり、それらを、自身の判断で、正確に区分分けができるようになることを目指す。</p>

連携先の企業等の意見・感想			
<p><成果> 【連携した結果に対する評価】 弊社は食品ロスと言われるような余剰食品を加工して養豚用の液状飼料を製造するリサイクル施設であり、近時は袋入りのパンや個食タイプの災害備蓄品、納入期限切れとなった倉庫内のパッケージ品等、開封に手間のかかる品物も多く搬入されるようになっている。オンステージ鶴間様はこうした食品を早く、かつ正確に開封してくださっており、作業面で大変助けていただいている。また前回課題としていた食品の搬入量の安定化についてはある程度改善され、作業日に要開封物が無いというケースは減少した。さらに2024年度は作業効率向上のため、作業時間をこれまでより長くとること(またその実現に向け、昼食をとっていただけるスペースを確保すること)を目指した。結果として今年度は一日当たりの作業時間が多くなっており、効率は向上しているのではないかと感じる。</p> <p>【今後の連携強化に向けた今後の課題】 今後の課題としては従来に引き続き、大量の搬入があった際や逆に搬入が少なかった際にどのように対応するかという点が挙げられる。また夏は暑く冬は寒い職場のため、作業環境を改善するためにどういった手法が可能か検討したい。</p>			
連携先企業名	株式会社日本フードエコロジーセンター	担当者名	高原 淳